

2018年制定 鋼・合成構造標準示方書  
施工編

目 次

第1章 総則	1
1.1 適用範囲	1
1.2 施工に関する要求性能	2
1.3 施工計画	4
1.4 施工技術者	6
1.4.1 施工技術者の倫理	6
1.4.2 施工技術者に要求される技術	6
1.5 用語の定義	7
第2章 材料	13
2.1 材料の性能	13
2.2 鋼材	13
2.3 鋼材の選定	15
2.4 鋼材の確認	17
2.5 鋼材の保管	18
2.6 溶接材料	18
2.7 高力ボルト	19
2.8 コンクリート	20
2.9 その他の材料	21
第3章 鋼材加工	24
3.1 鋼材加工の性能	24
3.2 野書き	26
3.3 切断・切削	27
3.4 孔明け	29
3.5 曲げ加工	30
3.6 ひずみ矯正	31
第4章 高力ボルト接合	34
4.1 高力ボルト接合継手の性能	34
4.2 ボルトセット	36
4.2.1 摩擦接合継手	36
4.2.2 支圧接合継手	41
4.2.3 引張接合継手	42
4.3 部材の加工と精度	43

4.3.1	ボルト孔	43
4.3.2	フィラー	47
4.3.3	ティーフランジの初期形状	47
4.4	接合面の処理	48
4.4.1	摩擦接合継手	48
4.4.2	支圧接合継手	48
4.4.3	引張接合継手	48
4.5	ボルトの締付け	49
4.5.1	締付け方法と締付けボルト軸力	49
4.5.2	締付け手順	56
4.5.3	締付け後の検査	57
4.5.4	施工上の留意点	59
<b>第5章</b>	<b>溶接接合</b>	<b>63</b>
5.1	溶接継手の性能	63
5.1.1	溶接方法	63
5.1.2	溶接材料	64
5.2	溶接作業	65
5.3	材片の組合せ精度	66
5.4	予熱	68
5.5	溶接後の熱処理	72
5.6	組立溶接	72
5.7	溶接施工の管理	73
5.8	外部きずおよび内部きずの検査	79
5.9	溶接欠陥の補修	84
5.10	溶接施工試験	85
5.11	ひずみ矯正	88
5.12	溶接部の仕上げ	88
5.13	溶接施工記録	89
<b>第6章</b>	<b>その他の接合</b>	<b>91</b>
6.1	高力ボルト摩擦接合と溶接の併用継手	91
6.1.1	高力ボルト摩擦接合と溶接の併用継手の性能	91
6.1.2	施工手順	91
6.1.3	高力ボルト摩擦接合継手の施工	92
6.1.4	溶接継手の施工	93
6.1.5	ボルトの仮締め	93
6.2	ピン継手	93

6.2.1	ピン継手の性能	93
6.2.2	施工上の留意点	93
6.3	普通ボルト継手	94
6.3.1	普通ボルト継手の性能	94
6.3.2	施工上の留意点	94
<b>第7章</b>	<b>部材精度</b>	95
7.1	部材の精度	95
7.2	連結部の精度	99
7.3	不適合品の取扱い	99
7.4	全体形状と組立精度の事前確認	99
<b>第8章</b>	<b>防食</b>	101
8.1	防食に求められる性能	101
8.2	塗装	105
8.2.1	施工計画	105
8.2.2	塗料	106
8.2.3	工場塗装	107
8.2.4	現場塗装	108
8.2.5	素地調整の方法と品質	110
8.2.6	保管・輸送・架設	111
8.2.7	検査	111
8.2.8	熔融亜鉛めつき面・金属溶射面および耐候性鋼面への塗装	112
8.2.9	記録	113
8.3	耐候性鋼	113
8.3.1	使用材料	113
8.3.2	黒皮処理	114
8.3.3	仮置き・輸送	114
8.3.4	コンクリート床版の施工上の留意点	114
8.3.5	記録	115
8.4	熔融亜鉛めつき	115
8.4.1	使用材料	115
8.4.2	付着量	115
8.4.3	加工・孔明け	116
8.4.4	溶接	116
8.4.5	めつき施工	116
8.4.6	摩擦接合面の処理	117
8.4.7	保管・輸送	118

8.4.8	架設	118
8.4.9	検査	119
8.4.10	記録	119
8.5	金属溶射	120
8.5.1	材料	120
8.5.2	加工・孔明け	121
8.5.3	溶接	121
8.5.4	素地調整の方法と品質	121
8.5.5	溶射作業	122
8.5.6	溶射皮膜厚さの検査	123
8.5.7	保管・輸送・架設	124
8.5.8	摩擦接合面の処理	124
8.5.9	施工困難個所の処理	124
8.6	その他の防食方法	125
<b>第9章</b>	<b>架設</b>	<b>127</b>
9.1	架設計画	127
9.1.1	予備調査	127
9.1.2	架設計画	129
9.1.3	架設の容易性	139
9.2	組立精度の事前確認	140
9.2.1	仮組立精度	142
9.2.2	連結部の精度	145
9.2.3	不適合品の取扱い	145
9.3	施工時安全性	146
9.3.1	施工時安全性の照査	146
9.3.2	架設時の部分係数	148
9.3.3	作用	148
9.3.4	本体構造物の構造安全性の照査	153
9.3.5	仮設構造物の設計	154
9.4	架設作業と施工管理	155
9.4.1	架設に求められる性能	155
9.4.2	輸送・保管	155
9.4.3	架設における組立	156
9.4.4	架設完了後の組立精度	157
9.4.5	コンクリートの施工	158
9.4.6	架設作業	158

9.4.7	支承部の施工	160
9.4.8	支承本体の施工	162
9.4.9	支承の施工上の留意点	165
9.4.10	定着部コンクリートの施工	166
9.4.11	付属品の施工	167
9.4.12	施工管理	169
9.4.13	施工精度	170
9.5	社会・環境適合性	171
9.5.1	騒音・振動対策	172
9.5.2	近接構造物への影響	173
9.5.3	地下埋設物・高圧線の防護	173
9.5.4	交通規制	174
9.5.5	建設副産物対策	175
9.6	架設作業の安全性	176
9.6.1	安全管理体制	178
9.6.2	安全対策	178